

令和3年度 芸術系教科等担当教員等 全国オンライン研修会 実施要項

1 目 的

芸術系教科等担当教員等に対し、学習指導要領の趣旨を踏まえた理論研修・実践研修を実施し、指導方法や評価方法等の工夫改善等につなげ、初等中等教育の芸術系教科等における指導の充実に資することを目的とします。

2 主 催 文化庁

3 共 催 全国芸術系大学コンソーシアム及び協力大学

- 4 開催期日 【第1回】 令和3年12月9日（木）
 ＊受講希望者報告提出期限 令和3年11月2日（火）
 【第2回】 令和4年2月17日（木）
 ＊受講希望者報告提出期限 令和4年1月11日（火）

5 日程（予定）

8:30	9:30	9:45	10:25	10:45	11:45	13:00	16:00	16:10	16:30
受付	オリエンテーション 開講式及び	全体研修	休憩・準備	理論研修 (教科・科目別)	昼食	テーマ別 実践研修 (教科・科目別)	休憩・準備	振り返り	

6 カリキュラム内容

- (1) 全体研修では、芸術系教科等の意義、役割、新学習指導要領の趣旨を踏まえた今後の学習指導における課題や可能性など、教科・科目別の理論研修では、新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導の在り方や学習評価等についての講義を、文化庁教科調査官等が担当して行います。
- (2) テーマ別実践研修は、学習指導要領の趣旨やねらいの実現を目指す授業を展開するための実践手法を中心とした研修プログラムとします。具体的には、「A表現」及び「B鑑賞」の授業実践と結び付いた実技研修、教材研究の方法、実践事例を通じた指導法の検討、指導に生きる学習評価の実際等とし、芸術系大学教員や広く活躍している芸術家等が担当として行います。

(3) 各研修（理論研修及びテーマ別実践研修）は、次のとおり開催します。

教科・科目	第1回（12月9日）		第2回（2月17日）	
	研修番号	予定定員	研修番号	予定定員
小学校音楽科	小音1	40名	小音3	20名
	小音2	40名	小音4	50名
小学校図画工作科	小図1	20名	小図4	20名
	小図2	30名	小図5	30名
	小図3	30名	小図6	30名
中学校音楽科 高等学校芸術科(音楽)	中高音1	40名	中高音4	50名
	中高音2	40名	中高音5	50名
	中高音3	20名	—	—
中学校美術科 高等学校芸術科(美術)	中高美1	20名	中高美7	20名
	中高美2	30名	中高美8	30名
	中高美3	20名	中高美9	20名
	中高美4	15名	中高美10	20名
	中高美5	20名	—	—
	中高美6	10名	—	—
中学校美術科 高等学校芸術科(美術)	中美高工1	40名	中美高工2	40名
高等学校芸術科(書道)	高書1	40名	高書2	40名

※ 第1回（12月9日開催）及び第2回（2月17日開催）分のテーマ別実践研修の研修テーマ等については、別紙2の「全国オンライン研修会の研修テーマ等について」を参照してください。

※ 各研修の概要（シラバス）については、決定次第、別途メールで送付します。

7 研修方法

- インターネットを利用したオンラインの受講を予定しています。
- オンラインでの受講には、カメラ、マイク機能のあるP C（ノート型、タブレット型等）またはスマートフォンが必要です。
- オンライン研修は、WEB会議アプリ（ZOOMを予定）を使用して行います。
- オンライン研修の受講場所は、各受講者の状況に応じて設定してください。

8 受講者

(1) 受講資格

- 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の教諭等であって、芸術系教科等を担当している者又は予定している者（非常勤講師等を含む）
- 都道府県、指定都市教育委員会の指導主事等

併せて以下の要件もご確認ください。

- ※ オンライン研修の受講に必要な機器、環境（受講場所等）を準備できること
- ※ 原則として、全ての研修プログラムを受講できること

（2）受講募集人数

- 各都道府県、指定都市から第1回、第2回それぞれ6名程度
 - ※ただし同一の教科等での合計は2名を上限とします。
 - ※私立学校、国公立大学付属学校はそれぞれ別途受け付けます。
 - ※各研修の受入れ可能人数を超えた場合は、調整することがあります。

（3）受講希望報告

- 各教育委員会等は「受講希望者の報告等について」に基づき、「受講希望者名簿」を作成し、
 - 第1回（12月9日開催）分については、令和3年11月2日（火）までに、
 - 第2回（2月17日開催）分については、令和4年1月11日（火）までに、文化庁参事官（芸術文化担当）付学校芸術教育室宛てに、電子メールで報告してください。

9 受講者の決定

- （1）第1回（12月9日開催）分について、文化庁は受講者を決定し、11月12日（金）を目途に、各教育委員会等に対して、通知します。
- （2）受講希望者が多数の場合は、文化庁で調整の上、決定・連絡します。

10 その他

- （1）本研修会は、目的に基づき芸術系教科等に関する理論及び実践研修を中心とするものであることを理解した上で受講希望者を提出してください。
- （2）本研修終了時に、受講者アンケート等を行います。また、本研修会の受講後、本研修会の成果をどのように活用したか等について、報告を求めることがあります。

全国オンライン研修会の研修テーマ等について

【第1回】 令和3年12月9日(木)開催分

教科等	研修番号	研修テーマ等	講師	担当大学(予定定員)
小学校 音楽科	小音1	自然で無理のない歌い方の指導 諸外国の音楽の楽しみ方 パイプオルガンの世界をのぞいてみよう	寺内大輔：広島大学准教授 林裕美子：エリザベト音楽大学教授 壬生千恵子：エリザベト音楽大学教授 福原之織：エリザベト音楽大学教授	エリザベト音楽大学 (40)
	小音2	学びが深まる「常時活動」の工夫： 歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の学習へのつながり	岩井智宏：桐蔭学園小学校教諭 市川 恵：東京藝術大学特任准教授	東京藝術大学 (40)
小学校 図画工作科	小図1 (小図4と同じ)	新たな表し方の工夫「木版リトグラフに挑戦しよう」	田中栄子：京都市立芸術大学教授 王木易：京都市立芸術大学講師	京都市立芸術大学 (20)
	小図2 (小図5と同じ)	解き放たれた版画ー表現としてのアートブッケー 子どもたちの豊かな思考力、判断力、表現力等の育成 を目指して	高浜利也：武蔵野美術大学教授 所 彰宏：武蔵野美術大学助教 大坪圭輔：武蔵野美術大学教授	武蔵野美術大学 (30)
	小図3 (小図6と同じ)	創造的に発想や構想する力を育むコラージュ技法の 指導と事例を通して学ぶ地域と連携した題材の展開	前半(実技) 宮崎勇次郎：東京造形大学准教授 後半(理論) 石賀直之：東京造形大学教授	東京造形大学 (30)
中学校音楽科、 高等学校芸術科 (音楽)	中高音1	I C Tを用いた音楽創作 ※iPad音楽創作アプリ (Garage Band) を使用	川上 統：エリザベト音楽大学講師	エリザベト音楽大学 (40)
	中高音2	リコーダーの教育的特性と指導法 ～リコーダーについてより深く知り、実技体験を通し て指導法を探究する～	吉澤 実：リコーダー奏者 元東京藝術大学非常勤講師	東京藝術大学 (40)
	中高音3	伝統音楽から学ぶ「身体で感じ取る音楽の授業」 ～三味線音楽と能楽～	竹内有一 (常磐津若音太夫) ：京都市立芸術大学教授 藤田隆則：京都市立芸術大学教授	京都市立芸術大学 (20)

教科等	研修番号	研修テーマ等	講師	担当大学(予定定員)
中学校美術科、 高等学校芸術科 (美術)	中高美 1 (中高美 7 と同じ)	なるほど！知らなきゃ損する映像術 ～映像メディアによる表現活動～ ※受講機器以外にタブレット端末又はノート型PCを使用	石橋義正：京都市立芸術大学教授	京都市立芸術大学 (20)
	中高美 2 (中高美 8 と同じ)	「知識及び技能」の実感を伴う習得を実現させ、表現と鑑賞をより豊かに深化させる造形活動の工夫 ※受講機器以外にタブレット端末又はスマートフォンがあると便利	三澤一実：武蔵野美術大学教授	武蔵野美術大学 (30)
	中高美 3 (中高美 9 と同じ)	絵を読むということ －見方や感じ方を深める手立てと授業づくり－	前半(中高)池上英洋：東京造形大教授 後半(中学)山田 猛：東京造形大教授 後半(高校)小林貴史：東京造形大教授	東京造形大学 (20)
	中高美 4	陰刻レリーフの研究 ～シーリングワックス印の制作を通して 授業への応用について～	尾澤 勇：秋田公立美術大学教授	秋田公立美術大学 (15)
	中高美 5	14歳からのコラージュ絵画表現 ～日本画材料を用いた表現を通して、創造的に表す技能や構想に関する資質・能力など、美術の本質に迫る学習評価について探る～	喜多祥泰：沖縄県立芸術大学准教授	沖縄県立芸術大学 (20)
	中高美 6	アルミホイルを使った彫刻 (素材から構想する昆虫の形体)	河原圭佑：沖縄県立芸術大学准教授	沖縄県立芸術大学 (10)
中学校美術科 高等学校芸術科 (工芸)	中美高工 1 (中美高工 2 と同じ)	植物繊維から糸を繕り網を編む ～縄文時代を想起させる素材と方法～	渡邊五大：東京藝術大学准教授 橋本圭也：東京藝術大学准教授	東京藝術大学 (40)
高等学校芸術科 (書道)	高書 1 (高書 2 と同じ)	書道教育におけるICTを効果的に活用した指導の工夫 ～新しい教育課程と学習評価を踏まえて～	加藤泰弘：東京学芸大学教授 松原直也：県立岐阜農林高等学校教諭	東京学芸大学 (40)

全国オンライン研修会の研修テーマ等について

【第2回】 令和4年2月17日(木)開催分

教科等	研修番号	研修テーマ等	講師	担当大学(予定定員)
小学校 音楽科	小音3	やってみよう！身体で感じとる我が国の音楽 ～能楽と三味線音楽の世界によろこそ～	藤田隆則：京都市立芸術大学教授 竹内有一(常磐津若音太夫) ：京都市立芸術大学教授	京都市立芸術大学 (20)
	小音4	音楽科授業におけるICTの活用： 鑑賞の学習を中心として	小梨貴弘：戸田市立戸田東小学校教諭 市川 恵：東京藝術大学特任准教授	東京藝術大学 (50)
小学校 図画工作科	小図4 (小図1と同じ)	新たな表し方の工夫「木版リトグラフに挑戦しよう」	田中栄子：京都市立芸術大学教授 王木易：京都市立芸術大学講師	京都市立芸術大学 (20)
	小図5 (小図2と同じ)	解き放たれた版画ー表現としてのアートブッケー 子どもたちの豊かな思考力、判断力、表現力等の育成 を目指して	高浜利也：武蔵野美術大学教授 所 彰宏：武蔵野美術大学助教 大坪圭輔：武蔵野美術大学教授	武蔵野美術大学 (30)
	小図6 (小図3と同じ)	創造的に発想や構想する力を育むコラージュ技法の 指導と事例を通して学ぶ地域と連携した題材の展開	前半(実技) 宮崎勇次郎：東京造形大学准教授 後半(理論) 石賀直之：東京造形大学教授	東京造形大学 (30)
中学校音楽科、 高等学校芸術科 (音楽)	中高音4	実践指揮法 一曲にふさわしい音楽表現を創意工夫し、実現するた めの視点と方法を学ぶー	荻久保和明：東邦音楽大学 大学院特任教授	東邦音楽大学 (50)
	中高音5	学びを深める鑑賞の指導法を探究する 一曲想と音楽の構造との関わりについて様々な視点か ら理解を深め、「聴き方」 について考えるー	加藤昌則：作曲家	東京藝術大学 (50)

教科等	研修番号	研修テーマ等	講師	担当大学(予定定員)
中学校美術科、 高等学校芸術科 (美術)	中高美 7 (中高美 1 と同じ)	なるほど！知らなきゃ損する映像術 ～映像メディアによる表現活動～ ※受講機器以外にタブレット端末又はノート型 P C を 使用	石橋義正：京都市立芸術大学教授	京都市立芸術大学 (20)
	中高美 8 (中高美 2 と同じ)	「知識及び技能」の実感を伴う習得を実現させ、表現 と鑑賞をより豊かに深化させる造形活動の工夫 ※受講機器以外にタブレット端末又はスマートフォン があると便利	三澤一実：武蔵野美術大学教授	武蔵野美術大学 (30)
	中高美 9 (中高美 3 と同じ)	絵を読むということ －見方や感じ方を深める手立てと授業づくり－	前半(中高)池上英洋：東京造形大教授 後半(中学)山田 猛：東京造形大教授 後半(高校)小林貴史：東京造形大教授	東京造形大学 (20)
	中高美 1 0	漫画の仕組みと多様な表現の可能性 ～漫画を活用した新たな表現方法を探る～	福士朋子：女子美術大学教授 鈴木淳子：女子美術大学教授 広瀬晴美：女子美術大学准教授	女子美術大学 (20)
中学校美術科 高等学校芸術科 (工芸)	中美高工 2 (中美高工 1 と同じ)	植物繊維から糸を撚り網を編む ～縄文時代を想起させる素材と方法～	渡邊五大：東京藝術大学准教授 橋本圭也：東京藝術大学准教授	東京藝術大学 (40)
高等学校芸術科 (書道)	高書 2 (高書 1 と同じ)	書道教育における I C T を効果的に活用した指導の工 夫 ～新しい教育課程と学習評価を踏まえて～	衣川彰人：愛知教育大学教授 松原直也：県立岐阜農林高等学校教諭	愛知教育大学 (40)